

# 「小郡市食料・農業・農村基本計画」に則った平成29年度事業報告〈概要版〉

## 〈「農業」の部〉

### 1 多様な担い手の育成・確保

#### (1) 認定農業者等の担い手の育成・確保

##### ○小郡市認定農業者の会

今後の小郡市の農業の中心的担い手として、市が認定をした農業者が、研修や情報交換などの創意工夫により農業経営の改善に資する場であるとともに、地域農業の発展に寄与していくために組織された。

##### ○役員視察研修（1/25～26）

###### ○ビタミン・カラー(株)



###### ○たわわタウン谷山



##### ○研修・講演会

- ・「農業法人の設立について」：三井地区農業経営法人会研修会（個別相談会も別途行う）
- ・「夏場の暑さ対策について（熱中症予防・対策）」：女性・新規就農者経営セミナー
- ・「秋冬野菜の育苗（セルトレイ利用）について」：女性・新規就農者経営セミナー
- ・「葉物野菜の病虫害について」：女性・新規就農者セミナー
- ・「中核となる若手の育成」：三井地区農業振興大会 テーマ「足腰の強い地域農業の確立」
- ・「女性経営セミナー先進地視察研修」視察先：梅の里工房、大日本産肥(株)
- ・「新規就農者セミナー（新規就農者の集い）」：

JA青年部役員の経営拡大過程や栽培方法の講演による新規就農者支援

- ・「外国人技能実習生の新制度の内容と注意点について」：三井地区雇用型経営研修
- ・「農業機械の安全使用、適切な労務管理と社会保険加入、今後の農政の方向性」：農振協

## ○人・農地プラン

○合計：168件（11/24時点）

- ・三国：15件、立石：59件、小郡：23件、御原：26件、味坂：45件

## ○集落営農組織の法人化

○2組織が法人化（国の「農業経営法人化等支援事業費補助金」を活用）

- ・干潟営農集団組合 ⇒ 農事組合法人ひかた（9/29設立）
- ・平方営農生産組合 ⇒ 農事組合法人 平方（10/25設立）

（2）新規就農者及び後継者の育成・確保

## ○就農相談

○相談件数：3件（後にうち2件が、就農する）

- ・親と連名での認定農業者：1件
- ・認定新規就農者となり、農業次世代人材投資資金の受給を予定：1件

## ○農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金制度）

○（国）農業次世代人材投資資金事業（経営開始型）を活用

- ・個人受給者：3人、夫婦型受給者：5組（10人）

## ○小郡市4Hクラブ

市内の若手農業者が、イベントを通じた地域貢献活動や親睦を図りながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともに、生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループで、全国組織。4Hとは、head（頭）、hand（手）、heart（心）、health（健康）の頭文字をとったもの。

活動としては、園児による「芋ほり体験」や「餅つき体験」といった食育に関する事業を展開している。

○芋ほり体験



○餅つき体験



### (3) 女性・高齢農業者等の多様な担い手への支援

#### ○研修・講演会

○女性・新規就農者経営セミナー（三井地区農業振興協議会／主催）

第1回「夏場の暑さ対策について（熱中症予防・対策）」

「秋冬野菜の育苗（セルトレイ利用）について」、「葉物野菜の病害虫について」

第2回「先進地視察研修」視察先：梅の里工房、大日本産肥㈱

○パートナー研修（小郡市認定農業者の会／主催）

#### ○農事組合法人モア・ハウス（8/24）



## 2 収益性の高い農業経営の確立、競争力のある産地の育成

(1) 収益性が高く安定的な農業経営の確立と地域農業の維持確保

#### ○水田農業担い手機械導入支援事業（県）

米・麦・大豆用の機械を導入する際に支援できる事業。

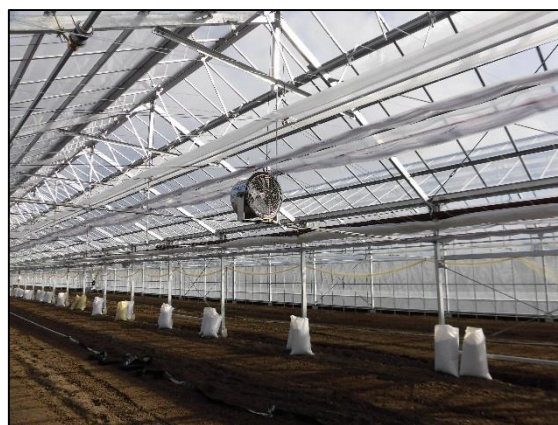
#### ○産地パワーアップ事業（国）

##### 活力ある高収益型園芸産地育成事業（県）

パイプハウス等の園芸施設や園芸用機械を導入する際に支援できる事業。

#### ○小郡市園芸施設等整備事業（市）

県事業等の要件を満たすことが難しい農家に対する支援事業。



・鉄骨ハウス（国）

#### ○農地中間管理事業

○平成29年 5月公募：貸し手（2件）⇒借り手（2件）へ

20筆：19,620 m<sup>2</sup> の集積

○平成29年11月公募：貸し手（49件）⇒借り手（2法人）

215筆：397,361 m<sup>2</sup> の集積

(2) 産地銘柄の確立（ブランド化）と6次産業化の促進

○アンテナショップ「福岡久留米館」



福岡久留米館は、久留米市・大川市・小郡市・うきは市・大刀洗町・大木町の4市2町が連携して出店したアンテナショップのこと。圏域の知名度を上げ、全国にファンをつくり、交流人口・移住人口の増加と特産品の販路拡大に繋げることを目的に、平成29年7月22日、東京の新橋にオープンした。

店内には、新鮮なフルーツや野菜、地酒をはじめ、匠の技が光る伝統工芸品を展示・販売している。また、移住や観光に関する相談窓口を設置し、随時、イベント等も実施している。

本イベントは、本市及びふるさと納税をPRするとともに、JAみい協力のもと野菜販売を行った。

イベント チラシ

↓ 全て完売しました。

農産物 ふるさと納税

# 小郡の魅力フェア

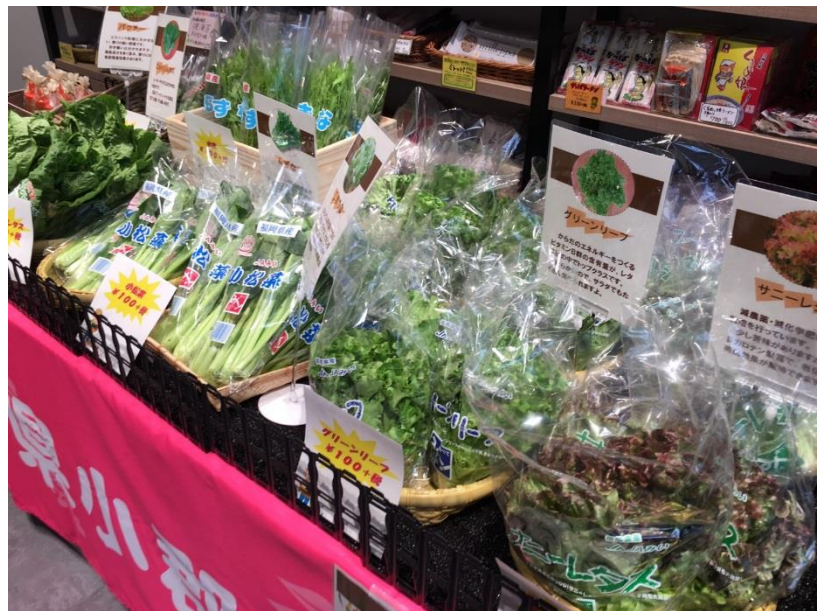
2月2日(金) 10:00～18:00  
3日(土) 10:00～16:00

- 1 小郡自慢の野菜販売**  
レタスや小松菜など小郡自慢の野菜を販売します。との野菜を1つ「1100円(税別)」です。数に限りがありますので、早い者勝ちです！
- 2 米すくい(無料)**  
小郡のお米(ひのひかり)を無料ですくえる「米すくい」がイベントにお楽しみください！※おひとり様1回限りとさせていただきます。
- 3 ふるさと納税 イベント特別受付**  
イベント会場ではふるさと納税を2万円以上お申込みの方に1千円を1つプレゼントします。※当日は申込受付のみで納税金はお預かりできません。

いちごの王様「あまおう」試食、日本酒(大吟醸)試飲もやります！  
いちご試食：2月2日(金) 13:00～18:00  
3日(土) 10:00～16:00  
日本酒試飲：2月2日(金) 10:00～18:00  
3日(土) 10:00～16:00  
※試食・試飲ともなくなり次第、終了とさせていただきます。  
※おひとり様1個の試食、1杯の試飲とさせていただきます。

場所：アンテナショップ 東京都港区新橋2-19-4 SNTビル1&2階  
「福岡 久留米館」 <http://www.f-kurumekan.jp/>  
交通アクセス：JR「新橋」駅東口から徒歩1分 東京メトロ銀座線「新橋」駅2番出口徒歩すぐ

◆主催：小郡市 ◆お問い合わせ：小郡市 企画課 企画及係係 0942-72-2111 (内線224)



## ○小郡市農産物特産品化事業

市内で生産された農産物等の高付加価値化を図る農業者団体等に対し、加工品開発費やPR等にかかる費用の一部について支援を行うために、補助事業を創設した。

## ○キヨミドリ（緑大豆）の特産品化事業

小郡市観光協会が事業主体となって、農業者団体である七夕の里小郡環境保全米研究会や市と連携して取り組んだ。活用したい農産物は、今まで本市で生産されていないものであるため、まずは、試験的生産にご協力いただける生産者との協議から始めている。

今年度は、商品化までの長期間に農業者よりキヨミドリを安定的に供給してもらえるよう、生産量と収益確保のために、キヨミドリを枝豆として販売する構想を、農業者や商工業者、報道関係者へ「EDAMAME PROJECT IN 小郡」でPRした。

現在、JAみいと販路確保のための協議を進めている。

また、「オータムフェスタ 2017 グルメ&スイーツ~そして、ささえ愛~」に、キヨミドリと米粉を使用した試作品のお菓子を無料配布し、アンケートによる意見聴取を行った。

### 「EDAMAME PROJECT IN 小郡」(10/11) 発表風景



### オータムフェスタ 2017 グルメ&スイーツ~そして、ささえ愛~ (11/26) 試食会場



## ○環境保全米を活用した米粉の特産品化事業

環境保全米を活用した米粉による加工食品については、平成29年作付が時期的に間に合わなかったため、主食用米で加工食品の試作を行った。試食会は、レーブ・ド・ベベととびうめにて行われた。

### レーブ・ド・ベベ試食会（3/22）

・シフォンケーキとクッキー



・ベーグル

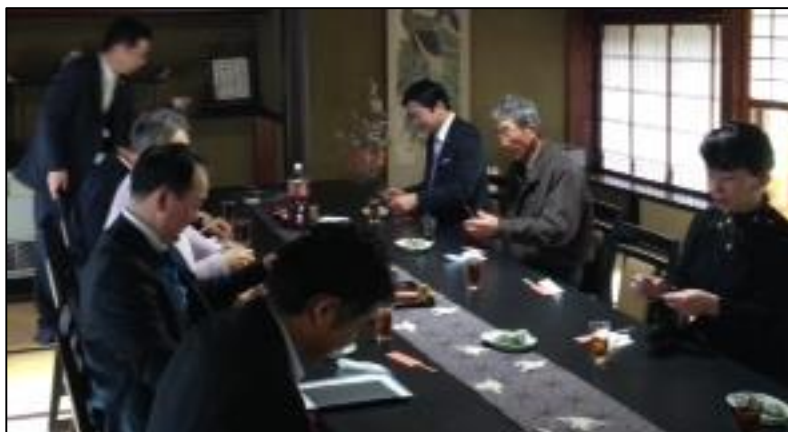


### とびうめ試食会（3/22）

・鴨肉うどん（フォー）



・鶏肉の春巻き（ライスペーパー）



・試食会風景



### ○七夕枝豆フェア

さらなる事業展開を推進していくために、宝満の市と小郡市飲食店組合が提携して「七夕枝豆を広める会」を発足、小郡市商工会や小郡市観光協会と連携した取り組みを行った。

通常事業以外に、商工会加盟業者に参加を呼びかけフェア対象店の裾野を広げる取り組みを行うとともに、観光協会のイベントでのPRにより相乗効果を図るとともに、食育の要素を取り入れたイベント展開を行った。

七夕枝豆を特産品としていくためには、市民に認知してもらうことが必要であることから、平成29年度は、収穫祭を開き（7/28～29）、七夕えだまめフェア（8/1～14）開催をPRした。

## 4 環境保全型農業の推進と自然環境機能の維持

### (1) 環境に配慮した農業生産の推進

#### ○環境保全型農業直接支払交付金事業

農業の持続的発展と農業の有する多面的機能の健全な発揮を促進するために、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に対して支援を行う。

エコファーマー認定者や「ふくおかエコ農産物認証」取得者で構成される団体が対象で、化学肥料や化学合成農薬の5割以上低減することが条件。

- ・ 4 グループ
- ・ 対象面積：4,231a
- ・ 取り組み内容：
  - ・ カバークロップ・・・2件：1,138a
  - ・ 堆肥の施用・・・1件：52a
  - ・ 有機農業・・・2件：3,041a

#### ○ふくおかエコ認証制度

化学合成農薬の散布回数（成分回数）と化学肥料の使用量を、ともに県基準の半分以下で生産する栽培計画を認証する制度。この制度に基づき生産された農産物（認証農産物）には、認証マークを貼ることができる。

○市内エコ農産物認証取得者：29戸（同一人物であっても、認証番号が異なる場合は計上）

- ・ 取組面積：6,153.766a
- ・ 取組品目：うるち米、さといも、こまつな、らっきょう、大豆



## ○エコファーマー認証制度

エコファーマーとは、「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」に基づき、「土づくり」、「化学合成農薬の低減」、「化学肥料の低減」の3つ全てに取り組み計画を作成し、県知事の認定を受けた農業者の愛称のこと。認定は5年間有効。

○市内エコファーマー認証者：2戸 取組品目：水稻、麦、大豆

## ○あすてらすフェスタ

「みんなで楽しく健康づくり」を合言葉に、あすてらす設置以前から「小郡市民の健康づくり大会」と題して開催されていたイベント。

「毎日食べるお米だから、身体に良いものもいい！そんな方に、『環境保全型農業』で生産されたお米を紹介！環境保全型農業とは、有機農業や化学肥料や農薬を県が定める基準の1/2以下しか使用せずに作付しており、人にも環境にも優しい農業のことです」

展示コーナーにおいて、「農薬を半分しか使用しない中、どうやってお米をつくるのか？」をパネル展示し、実際に環境保全米の試食を行って、「安全・安心なお米ってどんなお米？」なのかというPRに努めた。

あすてらすフェスタ H29.10.29 出店風景



## ○耕畜連携

畜産農家と耕作農家が協定を結び、水田で生産した飼料用作物を畜産農家に提供するとともに、家畜の堆肥を水田に還元し、土づくりを行う事業。

○耕畜連携件数：22件